

＜特別公開＞ 定朝様の丈六阿弥陀像

阿弥陀如来坐像

木造、漆箔
像高218.8cm
平安時代(11世紀)
奈良・外山区蔵



唐尺ではなく、少し小さい周尺に基づく丈六(立てば一丈六尺)像である。同等の大きさを有する像に、院覚作と推測される京都・法金剛院の阿弥陀如来坐像などがある。

像は顕著な定朝様を示す。定朝様とは、平安時代半ばに現れた仏師定朝の確立した様式をいい、代表作に宇治・平等院鳳凰堂の本尊阿弥陀如来坐像(国宝)がある。肉身の抑揚をおさえ、着衣のひだを浅く整えた、平明で優美な作風を基調とし、その後約200年間、日本の仏像の主流様式として定着した。定朝様に基づく作例は全国に多数見られるが、主要な作例は京都を中心に残されており、大和の地に大像は少ない。

そのようななかで本像は、はっきりしたまなざしややわらかな肉身の起伏に、定朝様のいまだ形式化しない初期の様相が認められ、その大きさとともに今後注目を集めるであろう作品である。

本像は傷みの目立つ状況であったが、平成23年度に本格的な修理が行われ、像容を一新した。

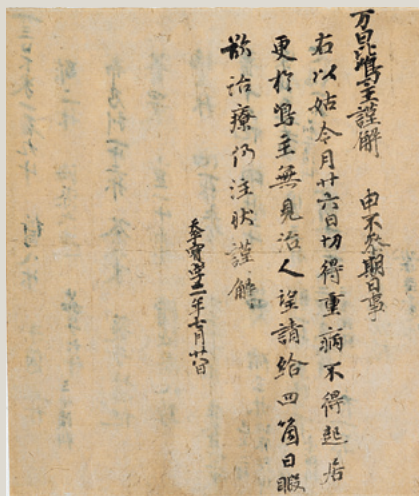
岩田茂樹(当館学芸部長補佐)

◆なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」にて展示中

名品展の みどころ

万昆嶋主解

紙本墨書
縦28.9cm 横24.7cm
奈良時代 天平宝字2年(758)
当館蔵



これは、万昆嶋主という、一風変わった姓を持つ下級役人が書いた休暇届である(「解」は上申文書の書式)。万昆嶋主は、官営の写経所に勤務する経師(経文の筆写を担当する職)の一人。生没年は不詳だが、天平6年(734)頃にはすでに写経所で働いていたことがわかっており、これを書

いた天平宝字2年には、ベテランの域に達していたであろう。

この休暇届によると、万昆嶋主は、親戚(父親の姉妹)が今月26日から重病に陥り、起居することができない状態となったため、看病をしていた。しかし28日になっても病状が回復しなかったため、嶋主はさらに4箇日の休暇を願い出たのである。

奈良時代の写経所職員が書いた休暇届は、これ以外にも数多く現存している。休暇取得の理由としては、担当分の写経が終わったからとか、自分の体調不良とか、家族の不幸などがあるが、親戚の看病というのは珍しい。本文書は、下級役人の生の声を伝える史料として、第一級の価値を持つと言える。

さらに付け加えれば、この文書は最近「再発見」された、貴重な奈良時代文書である。戦前は名古屋の個人が所蔵していたが、戦後は行方がよく分からず、研究者の間では戦火で失われたかとも言われていた。が、奇跡的に生き残っていたのである。

再発見されてからは、今回が初めての公開となる。ぜひこの機会にご覧いただきたい。

野尻 忠(当館学芸部企画室長)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて7月16日まで展示

開館日時(7月～9月)

〔開館時間〕

平常時(7月1日～20日および9月19日～9月30日)

午前9時30分～午後5時

※毎週金曜日は午後7時まで

特別展「頼朝と重源」会期中(7月21日～9月17日)

午前9時30分～午後6時

※毎週金曜日および8月5日～14日は午後7時まで

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

〔休館日〕

毎週月曜日

※月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌火曜日が休館

〔臨時開館日〕

8月13日(月)

観覧料金

名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無料
団体	400円	200円	無料

※団体は20名以上です。※満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

特別展 頼朝と重源

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,200円	800円	500円
団体	1,100円	700円	400円
前売	1,000円	600円	300円

※前売は、7月20日まで。

※団体は20名以上です。 ※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

